

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部



令和六年二月度 入賞句一覧

投句数 六百十二句

特選

大堀 武直 選

目のあたり母を見つけし初鏡

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

初鏡、初化粧。新年になって初めて鏡に向い化粧をする。じっくりと自分の顔を眺める。少し老けたかな、目尻の小皺が目立つのが気になる。そういえば目元が母そっくりになってきている。母への思いが一気に広がった。

魚は氷に上りて茶屋に新メニュー

大垣市 福田 木綿子

「魚氷に上る」は七十二候のひとつ。二月十四〜十八日頃。魚が動きだし、氷がゆるんで割れた隙間から飛び出して来るという時節。その頃に茶屋に登場した新メニュー。春の季節感たっぷりのものに違いない。季語との取合せが巧みである。

与ふるも受くるも笑顔お年玉

大垣市 森 茂寿

たしかにお年玉は貰う方も嬉しいが、与える方も嬉しいものである。孫の喜ぶ顔を見るのが良い。コロナ禍の時、書留でお年玉を送ったこともあったが、味気なかった。やはり笑顔と笑顔で言葉を交わし合い、お年玉を授受するのが一番だ。

秀逸

マネキンも試着の客も春着かな

大垣市 早答 千恵子

家系図に一人加はり福寿草

大垣市 大角 信華

掛け軸は父の草書や千代の春

大垣市 福岡 篤香

春障子あけて仏の父母とあふ

安八郡輪之内町 野村 照子

初鏡しわはしわでも笑ひ皺

大垣市 すみのさくら

隅つこの車椅子にも福の豆

大垣市 末守 節子

思ひきりしやぼん玉吹く車椅子

愛知県名古屋市 都築 靖子

水平線すつと引かるる初日の出

三重県四日市市 井戸 康子

大寒や閉づることなき仁王の目

三重県四日市市 後藤 允孝

だし巻きをくるつと回し年を越す

大垣市 柴田 えり子

入選

狛犬の大きく見ゆる今朝の春

福井県敦賀市

山田 美千代

バスを待つ小寒の日のスクワット

大垣市

酒井 和美

すり切れし筥に眠れる歌がるた

岐阜市

田中 淳子

大雪や鎌首のよな能登の地図

埼玉県川口市

吉永 寿美子

宇治の野に拝む比叡や光る雪

京都府宇治市

古根 洋子

風花や睫毛の長き女の子

大垣市

岡田 あや子

腰伸ばしひとつ溜息雪を搔く

大垣市

宮脇 和子

紅梅の香り豊かに吾子眠る

大垣市

北村 えみ子

振り向いてほしくて投げる雪つぶて

大垣市

細川 敦子

待春やシャツの仕上げの貝ボタン

養老郡養老町

田中 紫香

残雪の富士にみとれて八千歩

東京都狛江市

椎野 一恵

カーナビの朝の一声御慶から

揖斐郡大野町

横山 道男

あれその多き掛け声年用意

大垣市

高津 喜久子

寂しいと言えばいいのに冬薔薇

大垣市

柴田 えり子

着飾りてひ孫眠るや爺の膝

大垣市

松岡 みつ

ちと姿勢正し二十歳に年酒注ぐ

京都府京都市

石田 吉之助

初春や巫女の言の葉美しく

福岡県福岡市

大津 英世

巢立ちたる子らの部屋にも福は内

兵庫県豊岡市

辻井 一路

門番は赤き軍手の雪達磨

滋賀県大津市

近江 堇花

松の間に塔の相輪初日さす

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

一般の部

選者吟

益荒男の声高らかに鬼は外

武直

